

特集

星が おしえてくれるもの

巻頭グラビア
あおもり星空めぐり
写真&キャプション
三浦 直 (aomorigonta)

八甲田大岳と天の川。数年間狙っていた光景を捉えた。

八戸生まれの「野の天文学者」 前原寅吉が 子どもたちに語りかけるもの (八戸市)

八戸ポータルミュージアムはつつち4階の子どもの遊び場「こどもはっち」。その一角には「野の天文学者」と称される八戸の天文愛好家、前原寅吉が愛用した望遠鏡が展示され、宇宙と向き合い続けた先人の存在を静かに子どもたちに伝えている。



若き日の前原寅吉。写真提供：前原俊彦（右も）



寅吉の天文論文集。

幼い頃から 天文に興味を示した前原寅吉

寅吉は、1872（明治5）年、旧八戸藩士の家庭に生まれた。幼い頃から天文への関心を持ち、10歳の時には観測や本などから得た知識を元に「天文日誌」を記して、天文学や物理学を独習していた。

早くに父を亡くしたことから、家計を助けるために13歳で時計屋に奉公に出、1886（明治19）年に独立して番町で「前原時計店」（別名・天文山）を創業するが、事業の傍ら観測や研究を続け、1905（明治38）年に太陽の黒点を観測、1908年に天文学会員となった。

1910（明治43）年には、学会からは認められなかったものの、世界で唯一ハレー彗星の太陽面通過の観測に成功。また同年、白瀬轟中尉の南極探検隊に、自ら製作した星座時計を贈呈し、全国的に注目を集めた。

40代から視力を弱め、やがて失明するが、家族の協力と「心眼」をもって研



八戸ポータルミュージアムはつつち「こどもはっち」に展示されている寅吉の望遠鏡。



天文台「銀河」と天の川。写真提供：ロマントピア天文台（下も）



天文台「銀河」。前庭では昼、小型望遠鏡で岩木山頂を観察できる。



館内の天体ドームに設置された大型反射望遠鏡。夜は月面や惑星、星雲、恒星などを、昼は明るい恒星を観察できる。天気が良ければ同架の小型望遠鏡により、太陽黒点やプロミネンスが見られる。写真：サトウフミタカ（左下の写真も）

大型反射望遠鏡を備える 星と森のロマントピア 天文台「銀河」 （弘前市）

弘前市郊外の相馬地区にある、森に囲まれた宿泊施設「星と森のロマントピア」。敷地内には大型反射望遠鏡（40cm 反射カセグレン式望遠鏡）を備えた公開天文台「銀河」があり、訪れた人びとを天文の世界へと誘ってくれる。